

これからの学びの常識とは

子どもの学びの常識と指導する側の常識

2019.07.02

No.71

校長 渡邊 幸二

1ヶ月以上、筆が止まっていました。書きたいことはたくさんあったのに、なかなか文章として表すまでに至りませんでした。これを書くことは、自己目標にもなっていることなのに、いろんな言い訳をつけている自分がいます。子どもたちには高いレベルのことを求めている割に、「大人である自分はどうなの!？」と言われそうです。

なぜ学校で学ぶのですか？

国語も算数も、休み時間も給食も、すべてが学びの場です。面倒くさいこともあるから学びになるし、ムカッとすることもあから人とのかかわりが学べるわけでしょう。当然失敗も多々ある。学校だよりでも言いましたが、だからこそそこに教育が生まれるわけです。

今日は子どもたちのマイナスの面を強調しましたが、それはたまたまある学年に強く出ているだけで、どの学年にも当てはまることです。そういう傾向、そういう素質の子どもが多いというのが浜田小学校の現状です。ですから、最低でも学校自体ですべての担任がスクラム組んで「団体戦」を戦う覚悟が必要です。何かあったとしたら、それを披瀝することを躊躇せず、みんなで乗り越えるチーム浜田でありたいものです。

では、これからの学びの常識とは

では、指導者側として、これからの学びの常識とは何でしょう。どのような学習指導、生徒指導等を進めることが、未来を創る子どもたちにふさわしいのでしょうか。

先日の日野田直彦先生のご講演にそのヒントはあったように思います(著書を読めばわかります)。その小学校レベルの姿として、我が浜田小学校があればいいと思うのです。

私は、浜田小の先生方のご努力下、かなりいい線の学校に近づいていると思っています。学習面では浜田ブランド創造チームのリードがあるわけですが、その動きに自分事



学校教育現場-「自ら学ばず、他者の力で生きる子どもを育てる」 浜田小学校の教育理念-「じりっ(自主・自決)と公認・賞賛」

子どもは成長途中! 失敗も多々ある!

だから「教育」の必要性がある

子どもですから、とどき失敗をします。いけないこともしてしまいます。ずるいことも、卑怯なこともするでしょう。うそだってつくし、意地悪なことだってします。ルールを守らないどころか、自分勝手にルールを変更するような自己中心的なこともやらせます。そして、残酷と思うことも平気でしてしまうことだってあります。成長途中の子どもですから、ある意味仕方ありません。

でも、子どもだからと言って、すべて許されることでしょうか。もちろんそんなことはありません。

以前(何で見たかは忘れてしまいました)飛行機の中のある出来事として、子どもの失敗に対する親の言動が載っていました。それは…

フライトの途中、ドリンクがCAさんから配られました。それを争にした子どもがそれをこぼしてしまい、隣に座っていたお客さんにこぼし、服を汚してしまったのだそうです。そこで親の教った言葉は…

「あなた(CAさん)の配り方が悪いのよ!(あなたが)謝りなさいよ。」

「子どもだっていやな思いしたじゃないの!」

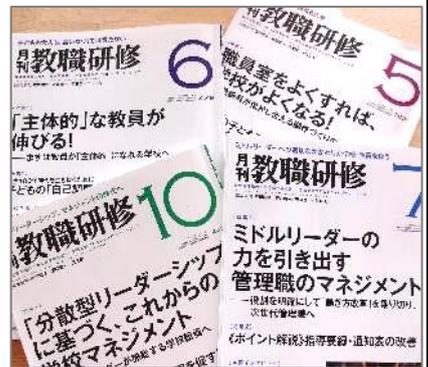
というような内容のお話だったと思います。飲み物をぐいっと取り行こうとした子どもの手がぶつかったせいであることは明らかなのですが…

この事例の親のように、子どもの失敗を見て見ぬふりして、挙げ句の果てに他人に責任を転嫁してしまうようなことばかりしていたら、いったいどんな子どもに育ってしまうのでしょうか。(当然親に頼って責任逃れする人になります)




みなさんは、酒田市資料館のこの石に刻まれた文字が土門拳のもの、しかも半身不随となった後に、利き手ではない方の手で書いた字ということを知っていましたか? 6年生の子どもたちにいろいろ教えられたファミリーハイキングでした。

としてかかわっている、ある意味浜田小を創っている当事者としてオーナーシップをもって取り組んでくださっていることに価値があると思うのです。みなさんが同じ方向を向いて、自らが学校を創ろうとすること……それがとても有難いです。まさしく「有難い」ことだと思います。まだ学校にとっては「有難い」ことだからこそ、教育雑誌で教員が学校経営に主体的に参画する大切さやその効用などが盛んに述べられているのだと思います。まさにその最先端を進んでいるようにも思うのです。



浜田っ子の未来

新学習指導要領で求められている学力

生きて働く知識・技能の習得 **主体性** 思考力・判断力・表現力

未知の状況にも対応できる**思考力・判断力・表現力**等の育成

学びも人生や社会に活かそうとする**学びに向かう力・人間性の涵養**

頂上・計算テストは抜群!? **公益・貢献** **他者意識**

一を聞いて十を知る能力や応用力
柔軟性、フレームにとらわれない発想力

脱・優等生 (人と違うことをできる人) いわゆる頭の良さ悪しきだけではない 柔軟さ すべての人に求められる

話がずれてしまいましたが、これからの学びの常識は、本校のように、獲得すべき資質・能力に着目しながら、子どもたちが「わからない」を発し、主体的に「きく」活動を通して、対話をしながら学び合っていく中で深い思考となっていく……そんな営みが学びの常識になるのではないのでしょうか。どうか今の学びを追い求める営みを緩めないで進めていってほしいと思います。それは、校長が誰になろうが、みなさんがどこへ転職しようが絶対に変わらない方向性です。もちろん世の中が進み、さらに変革をしていかなければ時代に追いつけないということは後年再び起こるでしょうが、今は間違いのない方向であると確信しています。(はっきり言うと、どんどん進んでいる時代に追いつけるかどうか不安ではあります。日本全体が、もっと加速しないと「追いついた」とはならない気がします…)

HAMADA ミライ科が動き出すらしい

笑点か好き過ぎて
二食反の時間にかきならんと
夕一おこるらしい

「うわさプロジェクト」と言うらしい

浜田小学校で、いよいよ南高と
コラボした授業が始まるらしい